

72

内閣情報部三九 情報第七號

四川露語放送 (六日)

(大阪通信局轉取)

- 一 一日日本陸相畑は議會に於ける演説中、ノモンハン事件の終了後、國境地帯は日本軍の完全なる守備下にある事を闡明した。
- 二 昨日最初の中國婦人團體に依る對支友の會の創立會議を開催、約一〇万弗の援助費が海外より送られることになつてゐるが蔣介石氏夫人も出席、對支援助友の會のため活動奮起を激する所があつた。
- 戰況 南支廣西南方戰線は、目下惡天の爲、活潑な戰闘は行れてゐないがスンヤン方面は吾方に有利に展開、同市は吾手に歸し、敵は退却小銃十三〇を捕獲した。猶、南寧に始る一般南支戰線に就て、日本議會では、誇大的戰勝報告をなしてゐるが、その一面、敵軍當局は、老大な戰備軍事豫算を提出した。敵軍の敗退、兵力の消耗、甚大なる軍事費は今日敵に斷末魔的呼びをおけしめつつあるのだ、敵は遂に南支戰線に於ては、常に攻めながら常に損害を蒙り失ふ爲に進軍しつゝあるが如き有様である。

秘

内閣情報部二・九 情報誌外

哈府露語放送（十七日）

（東京都市通信局電取）

一、レニツダラード軍管區司令部發表の戦況、二月四日の戦線にありては主として斥候の偵察行動に終始した、ラドガ湖近くで彼我の歩兵部隊間に衝突があつた、この日吾空軍は偵察飛行並に爆撃を行つた、

一、駐蘇マストニヤ公使レイー氏は外務人民委員部にボチヨムキン次長を訪ね去る二月二日タリシオン橋にありし蘇聯パルチツク海軍所屬の軍艦がマストニヤ飛行機に對し發砲したる事件に關し抗議を提出した、これに對しボチヨムキン次長は二月四日マストニヤ公使に對しパルチツク海軍當局の詳細なる報告に基き釋明をなし斯る事件を惹起したることに對し蘇聯政府は深く遺憾とするこの回答を手交した。

一、日本下院の議席は、民政黨一七四、政友會中島派九十七、久原派七十二、社會大衆黨三十三、時局同志會三十二、第一議院俱樂部二十二、無所屬十八であり民政黨が第一黨である、政友會は昨年五月二つに分裂したものであるが元來政友會は日本最大のコンツェルン三井との關係極めて緊密である、

中島派の總帥、中島は日本の最大飛行機會社を所有するものである、米内内閣には民政黨からは藏相に櫻内、遞相に勝を出して居り政友會からは中島派から農相に島田を久原派から鐵相に松野を出してゐる、時局同志會と云ふのは下院の中でも最も反動的色彩の濃い一派である（以下不明）